

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-30C	16-090	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Racial disparities in preventable risk factors for head and neck cancer. 頭頸部癌の予防可能な危険因子の人種格差		
執筆者		
Dwojak S, Bhattacharyya N.		
掲載誌		
Laryngoscope. 2017 May;127(5):1068-1072. doi: 10.1002/lary.26203. Epub 2017 Feb 19.		
キーワード	PMID	
頭頸部癌、人種、喫煙、飲酒、ヒトパピローマウイルスワクチン	28215050	
要 旨		
<p>目的： 米国における頭頸部癌罹患の危険因子の実態を人種・性別に明らかにする。</p> <p>方法： 米国疾病管理予防センターが2013年に実施した健康状態および健康行動についての電話調査データ(BRFSS)を用いて、頭頸部癌罹患の危険因子(飲酒習慣、喫煙習慣、ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン接種状況)を人種・性別に確認した。</p> <p>結果： 2億3,860万人の米国人を対象とした。暴飲(1機会に大量飲酒すること)者割合は、アメリカ・インディアン(19%)が、白人(17.3%)、黒人(12.4%)、アジア人(13.1%)に比べて高かった。性別では、アメリカ・インディアンの男性(23.5%)は女性(13.7%)に比べて暴飲者割合が高かった。1ヶ月の飲酒量はアメリカ・インディアンと白人でいずれも13.5杯であり、他の人種に比して多かった。喫煙習慣は、アメリカ・インディアンが28.1%と最も高く、次いで黒人20.1%、白人18.3%、アジア人10.2%であった。毎日喫煙する者の割合もアメリカ・インディアン(18.2%)は、他の人種(白人13.3%、黒人13.1%)に比して高かった。HPVワクチン接種状況は、アメリカ・インディアン(11.7%)で他の人種(白人14.6%、黒人13.6%、アジア人12%)に比べて最も低かった。</p> <p>結論： 頭頸部癌の予防可能な危険因子の状況には、顕著な人種格差がある。</p>		